

「宇治川の先陣」群読「」ンテスト

平家物語「宇治川の先陣」の群読シナリオを作り、発表する。

【目的】「宇治川の先陣」の世界を群読で上手に表現する。

【目標】みんなで解釈と表現が一致した群読を作り上げる。

【授業の流れ】

- ①「宇治川の先陣」の群読シナリオをグループで作成する。
- ②群読練習（「あめ」も含む）・中間発表
- ③コントテスト

【詳細①】

各班に配布された用紙に「宇治川の先陣」の群読シナリオを記す。書き直す必要があるので、鉛筆で書いてかまわない。ただし、コピーして配布するので、**濃く書くこと**。

『フォーマット』

- ・「宇治川の先陣」のどの部分を選んでもかまわないが、すらすら読んで1分以上の群読にすること。（1分未満の場合は大幅減点の対象となる。）
- ・技法は「宇治川の先陣」の世界を表現するためなら自由に使ってかまわないが、必ず次のことは守ること。

◎言葉の繰り返しはOKだが、省略はNG。

A増加法 B乱れ読み C追いかけ

- ◎次の3つの技法の部分にはその解釈と技法の関連の説明をしてもらう。（シナリオ評価のポイント！）

【詳細③】

「あめ」（規定演技）と「宇治川の先陣」（自由演技）の群読を発表する。

『評価のポイント』

- ・声の調和、大きさ、グループの間合い。
- ・技法を正確に演技できているか。（規定演技）
- ・シナリオと解釈がマッチしているか。（自由演技）
- ・演技時間。（「宇治川の先陣」は1分以上2分未満）



《漸増法》

・園精舎の鐘の声、

+ B 諸行無常の響きあり。

+ C 婆羅双樹の花の色、

+ D 盛者必衰のことわりをあらはす。

《乱れ読み》

A 遠く異朝をとぶらへば、

§ B C D 秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の禄山、

A これらは皆

全員 旧主先皇の政にも従はず、楽しみを極め、

《追いかけ》

これらはおぐれる心もたけきことも、皆とりどりにこそありしかども、

これらはおぐれる心もたけきことも、皆とりどりにこそありしかども

これらはおぐれる心もたけきことも、皆とりどりにこそありしかども、

これらはおぐれる心もたけきことも、皆とりどりにこそありしかども、



(ばらばらに読み、何度も繰り返す)